(19)日本国特許庁(JP)　(12)登録実用新案公報(U)　(11)実用新案登録番号
実用新案登録第3144298号
(U3144298)
(45)発行日　平成20年8月21日(2008.8.21)　(24)登録日　平成20年7月30日(2008.7.30)

(51)Int.Cl.　　F I
A47C 27/00 (2006.01)　A47C 27/00　K
A47C 27/15 (2006.01)　A47C 27/15　Z

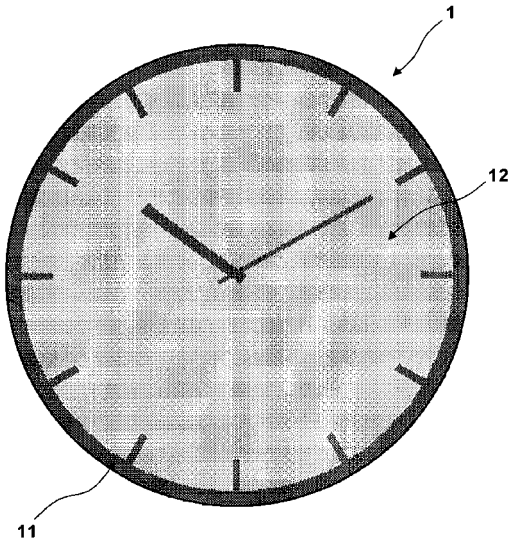
評価書の請求 未請求　請求項の数 4　ＯＬ　（全 6 頁）

(21)出願番号　実願2008-3999(U2008-3999)
(22)出願日　平成20年6月13日(2008.6.13)

(73)実用新案権者　500297971
株式会社センプレデザイン
東京都港区南青山五丁目１３番３号
(74)代理人　100071205
弁理士　野本　陽一
(72)考案者　田村　昌紀
東京都港区南青山五丁目１３番３号
ＦＩＫ南青山ビル１階
株式会社センプレデザイン内

(54)【考案の名称】椅子用シートクッション

(57)【要約】　（修正有）
【課題】紐などで固定する必要がなく、簡素な構造で、椅子の意匠性を損なわない椅子用シートクッションを提供する。
【解決手段】椅子の座面上に敷設可能な大きさのシート状のクッション体１１の少なくとも片面に、合成樹脂又はゴム材料からなるすべり止め材１２を任意の模様で印刷したすべり止め加工がなされている。このため、椅子の座面に敷くだけで、使用者が座ったときにすべり止めされ、簡素な構造なので椅子の意匠性への影響を小さく抑えることができる。
【選択図】図２



【実用新案登録請求の範囲】
【請求項１】
椅子の座面上に敷設可能なクッション体の少なくとも片面にすべり止め加工がなされたことを特徴とする椅子用シートクッション。
【請求項２】
すべり止め加工が、合成樹脂又はゴム材料からなるすべり止め材を任意の模様で印刷したものであることを特徴とする請求項１に記載の椅子用シートクッション。
【請求項３】
クッション体がフェルト単体からなるものであることを特徴とする請求項１に記載の椅子用シートクッション。
【請求項４】
クッション体が織布又はフェルトからなる外装材にクッション性を有する内装材を充填したものであることを特徴とする請求項１に記載の椅子用シートクッション。
【考案の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本考案は、椅子の座面上に敷設されるシートクッションに関する。
【背景技術】
【０００２】
従来、椅子の座面上に任意に敷設されるクッションとしては、座布団状のものが用いられている。すなわち、この種のクッションは、わたやウレタンフォームなどを袋状の布地でくるんで縫合されたものであり、紐や面ファスナで固定するようにしたものなどがある（例えば下記の特許文献参照）。
【０００３】
【特許文献１】特開２００２－２２４１６７号公報
【特許文献２】実開平７－３３１５３号公報
【０００４】
しかし、この種のクッションは、一般にボリュームが大きいため、意匠性を重視した椅子に用いた場合、椅子の意匠性が損なわれてしまいやすく、紐などで括りつけるものは、椅子への着脱も煩雑であった。
【考案の開示】
【考案が解決しようとする課題】
【０００５】
本考案は、以上のような点に鑑みてなされたものであって、その技術的課題は、紐などで括りつける必要がなく、簡素な構造で、椅子の意匠性を損なわないクッションを提供することにある。
【課題を解決するための手段】
【０００６】
上述した技術的課題を有効に解決するための手段として、本考案に係る椅子用シートクッションは、椅子の座面上に敷設可能なクッション体の少なくとも片面にすべり止め加工がなされたことを特徴とする。この構成によれば、すべり止め加工がなされた側を下にして椅子の座面上に敷くだけで、すべり止め加工面が使用者の体重によって椅子の座面に圧接してすべり止めされるので、紐などで固定する必要もなく、その結果、簡素な構造として椅子の意匠性への影響も軽微に抑えることができる。
【０００７】
本発明における好ましい構成としては、すべり止め加工が、合成樹脂又はゴム材料からなるすべり止め材を任意の模様で印刷したものとする。このようにすれば、すべり止め材自体に意匠性を有するものとすることができ、椅子における木製、合成樹脂製、あるいは金属製などの座面に対して優れたすべり止め効果を発揮することができる。
【０００８】

本発明における好ましい他の構成としては、クッション体がフェルト単体からなるものとする。このようにすれば、一層簡素な構造として椅子の意匠性への影響を著しく小さく抑えることができる。

【０００９】

本発明における好ましい他の構成としては、クッション体が織布又はフェルトからなる外装材にクッション性を有する内装材を充填したものとする。このようにすれば、クッションとしての機能を向上させることができる。

【考案の効果】

【００１０】

本考案に係る椅子用シートクッションによれば、椅子の座面上に敷くだけで、使用者が座ったときにすべり止めされるので、固定用の紐なども不要であり、簡素な構造なので椅子の意匠性への影響を小さく抑えることができる。

【考案を実施するための最良の形態】

【００１１】

以下、本考案に係る椅子用シートクッションの好ましい実施の形態について、図面を参照しながら説明する。図１は、本考案に係る椅子用シートクッションの第一の形態を示す平面図、図２は、同じく底面図、図３は、図１におけるIII－III’線で切断した断面図、図４は、使用状態の斜視図である。

【００１２】

すなわち第一の形態の椅子用シートクッション１は、図４に例示したような椅子１００の座面１０１上に敷設可能な大きさのクッション体１１の片面に、すべり止め材１２によるすべり止め加工がなされたものである。

【００１３】

詳しくは、クッション体１１は、平面形状が図１又は図２に示されるような円形で、厚さが約２～５ｍｍ程度の薄いシート状のフェルト単体からなる。

【００１４】

また、すべり止め材１２は、摩擦係数の大きい合成樹脂材料又はゴム材料、典型的にはＰＶＣ（polyvinyl chloride：ポリ塩化ビニル）からなるものであって、クッション体１１の片面に、シルクスクリーン印刷法などによって時計の文字盤をモチーフにした模様に印刷されたもので、すなわちすべり止め材１２からフェルトの表面が露出した部分が、時計の文字盤の模様をなしている。

【００１５】

すなわちこの第一の形態によるシートクッション１は、すべり止め材１２によるすべり止め加工がなされた面を下側にして、図４に示されるように、椅子１００の座面１０１上に敷いて用いられるもので、椅子１００の座面１０１が木製、合成樹脂製、あるいは金属製である場合に、使用者が座ったときの冷たさや硬さを解消して、座り心地を向上させるものである。

【００１６】

また、クッション体１１に使用者の体重が作用することによって、すべり止め材１２が椅子１００の座面１０１に密着すると、このすべり止め材１２は大きな摩擦力を生じるので、例えば使用者が椅子１００の背もたれ１０２に背中をもたれかけた姿勢で座った場合に、シートクッション１が座面１０１上を前へすべるのを有効に防止できる。

【００１７】

また、クッション体１１が薄いシート状のフェルト単体からなる簡素な構造であるため、図４のような意匠性を重視した椅子１００に用いても、椅子１００の意匠性への影響を軽微に抑えることができる。

【００１８】

次に図５は、本考案に係る椅子用シートクッションの第二の形態を示す平面図、図６は、同じく底面図、図７は、図５におけるVII－VII’線で切断した断面図である。

【００１９】

これらの図に示される第二の形態の椅子用シートクッション１において、先に説明した第一の形態と異なるところは、クッション体１１が、表裏の外装材１１１，１１２間にクッション性に優れた内装材１１３を充填して外装材１１１，１１２の外周部を縫合１１４した点にある。外装材１１１，１１２には、例えば厚さが約２ｍｍ程度のフェルトが好適に用いられ、内装材１１３には、例えば厚さが約１０ｍｍ程度の発泡ウレタンなどの弾性フォームが好適に用いられる。

【００２０】

外装材１１１，１１２のうち裏面となる外装材１１２には、摩擦係数の大きいＰＶＣ等からなるすべり止め材１２を用いて、第一の形態と同様、シルクスクリーン印刷法などによってすべり止め加工が施されている。

【００２１】

すなわちこの第二の形態によるシートクッション１も、すべり止め材１２によるすべり止め加工がなされた面を下側にして、図４に示される椅子１００の座面１０１上に敷いて用いられるもので、第一の形態と同様の効果に加え、クッション体１１に充填された内装材１１３によって、第一の形態のようなフェルト単体のものに比較して優れたクッション性が確保される。

【００２２】

なお、すべり止め材１２は、図示の例のような時計の文字盤をモチーフにしたものに限定されるものでないことは勿論である。

【図面の簡単な説明】

【００２３】

【図１】本考案に係る椅子用シートクッションの第一の形態を示す平面図である。

【図２】本考案に係る椅子用シートクッションの第一の形態を示す底面図である。

【図３】図１におけるIII－III’線で切断した断面図である。

【図４】本考案に係る椅子用シートクッションの第一の形態を示す使用状態の斜視図である。

【図５】本考案に係る椅子用シートクッションの第二の形態を示す平面図である。

【図６】本考案に係る椅子用シートクッションの第二の形態を示す底面図である。

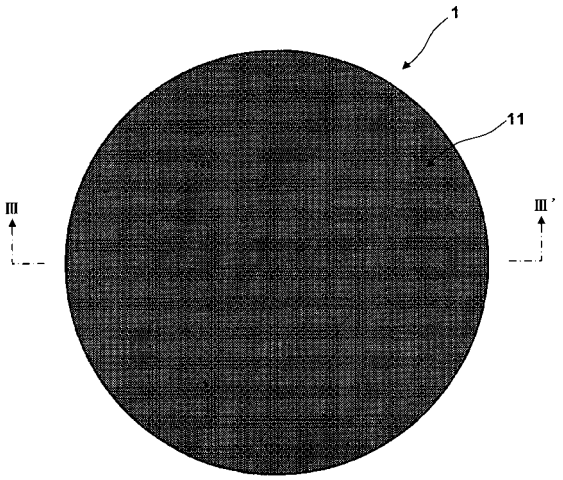
【図７】図５におけるVII－VII’線で切断した断面図である。

【符号の説明】

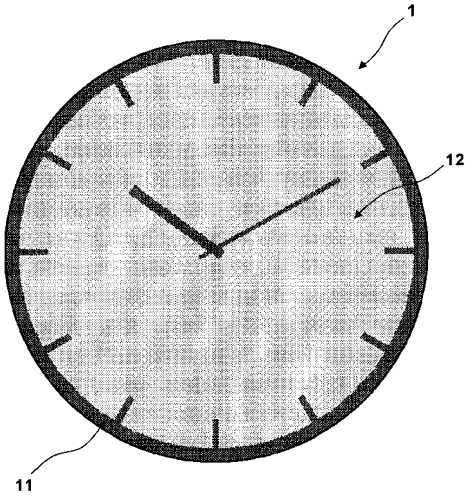
【００２４】

１　椅子用シートクッション
１１　クッション体
１１１,１１２　外装材
１１３　内装材
１２　すべり止め材
１００　椅子
１０１　座面

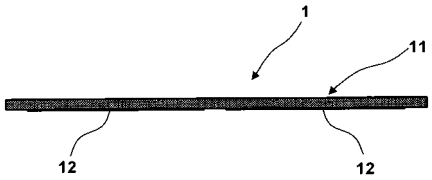
【図１】



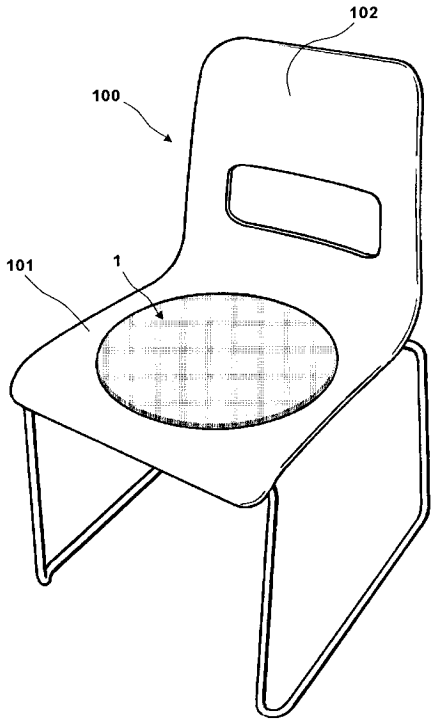
【図２】



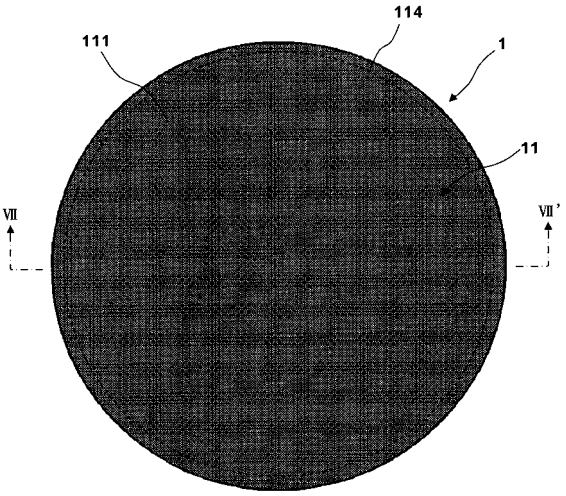
【図３】



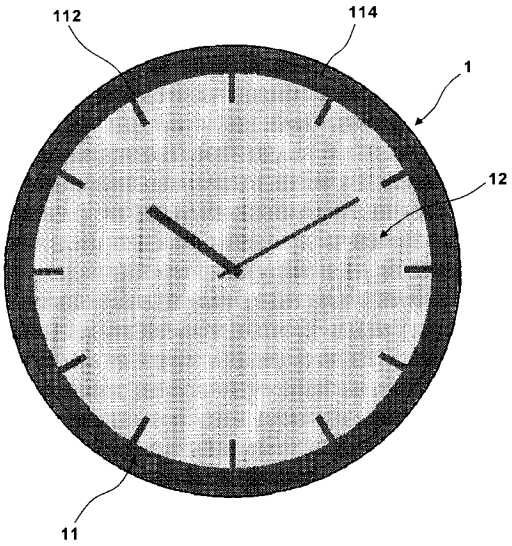
【図４】



【図５】



【図６】



【図７】

